



西前小だより

横浜市立西前小学校

Web:<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nishimae/>

本当に怖いものは・・・

校長 末松 隆一郎

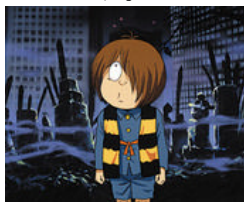
草木萌え動き、次第にやわらぐ陽光の下、冬の間蓄えていた生命の息吹が外へ表れはじめる頃、季節は、確実に、躍動の時を迎えようとしています。

本年度（平成26年度）もあと1ヶ月となってしまいました。学校では卒業式の練習も始まり、1年の総仕上げ、そして、次年度の準備に一層の拍車がかかりはじめています。

先日の全校集会で、「ようかい体操第一」をみんなで踊りました。特に低学年の子どもたちはノリノリで、職場体験中の中学生も舞台に飛び入り参加し、とても楽しい時間を過ごしました。今まさに、「妖怪ウォッチ」による「妖怪ブーム」だそう。子どもたちに聞いたところ、「妖怪」と聞いて連想するものは、ほとんどの子が「妖怪ウォッチ」「シバニャン」「ウィスパー」などでした。皆さんはいかがでしょうか。私は、「妖怪」といえば、断然「ゲゲゲの鬼太郎」を思い起こします。



「ゲゲゲの鬼太郎」は、今から50年以上前にテレビアニメ化され、以降6度に渡りテレビアニメ化、また、実写映画化された作品です。きっと幅広い世代の「鬼太郎派」がいることと思います。



私が一番夢中になって見ていたのは、1971年の第2期、2回目のテレビアニメ化のときでした。とても楽しみでしたが、大変怖かったのを覚えています。その中で、今でも鮮明に覚えている作品があります。それは第18話の「幸福という名の怪物」という作品です。話の概略として、人間の願いをかなえる地獄玉というのがありました。地獄玉は人間の欲望がふくれあがるとともにふくれ、最後は爆発してしまうという恐ろしいものでした。ある日一人の人間がその地獄玉を手に入れてしまい、「100万円ほしい」「大きな家がほしい」「世界中のダイヤがほしい」等々、どんどん欲をふくらませていきます。鬼太郎が爆発を防ぐため何とか止めようとするのですが、その人は言うことを聞かず、結局爆発して、何もかも失ってしまうという話でした。

普通は恐ろしい妖怪や幽霊がでてきて、正義の味方である鬼太郎が、人間を守るために悪い妖怪達をやっつけるというのが「ゲゲゲの鬼太郎」の基本的な筋なのですが、この話には、悪い妖怪や恐ろしい幽霊は出てきません。なのに、今でも忘れられないのは、鬼太郎のお父さん、「目玉の親父」のこんな台詞があったからだと思います。

「人間というのは、欲望のかたまりで、欲望にはきりが無いんじや。」

鬼太郎、人間が欲にくらむと、恐ろしいものじやのう。」



きっと私は、どんな恐ろしい想像上の妖怪よりも、人間が持っている強欲と、そこから抜け出せない弱さ、その末路を、爆発した夕暮れの廃墟にたたずむ一家の表情と共に心に刻み込まれ、そして「欲ばってはいけない」という教訓として、覚えているのだと思います。

「虻蜂取らず」「欲する鷹は爪落とす」「二兎を追うものは一兎をも得ず」などの諺や「おむすびころりん」「花咲かじいさん」「舌切り雀」などの昔話にも、欲の深さを戒めるものがたくさんあります。1971年は、高度経済成長の歪みと陰りが見え始めたオイルショック前夜の時代。「本当に恐ろしいものは、人間の心の中にある。」そんなメッセージを、この作品は、鬼太郎でさえ止めることができなかったということを通して訴えていたのではないかと思います。

40年の時を越え、今この教えを思いだし、あらためて、我欲にのみ走ることなく、心清く気持ちよく生活していきたいと思いました。

一ありがとうございました。一

本年度一年間、本校の教育活動に対しまして、保護者の皆様及び地域の方々が常に温かく見守ってください、ご理解とご協力をいただきましたこと、教職員一同、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。次年度も、さらに教育活動が充実していきますよう鋭意努力を重ねていきたいと思っております。よろしくお願いたします。